

# 栗原の稲作通信

第5号 令和7年7月17日発行

宮城県栗原農業改良普及センター  
宮城県米づくり推進栗原地方本部  
電話番号 0228-22-9404

## ○今後の栽培管理のポイント○

1. 幼穂形成期に入っているほ場では、品種や生育量に合わせた追肥を行いましょう。
2. 用水が確保できるほ場では、中干し後に「間断かん水」、用水の確保が難しいほ場では、中干し後に「飽水管理（ほうすいかんり）」を行いましょう。
3. 斑点米カメムシ類の本田への侵入を防ぐため、水田畦畔の草刈りは出穂10日前までに終わらせましょう。

【管内の水稻の出穂前後の草刈り自粛期間は7/24（木）から8/22（金）】

## 1. 気象経過

○7月上旬（7/1～7/10）の気温は平年と比較して、高く推移しました。この時期の降水量は少なく推移し、日照時間は多くなりました。

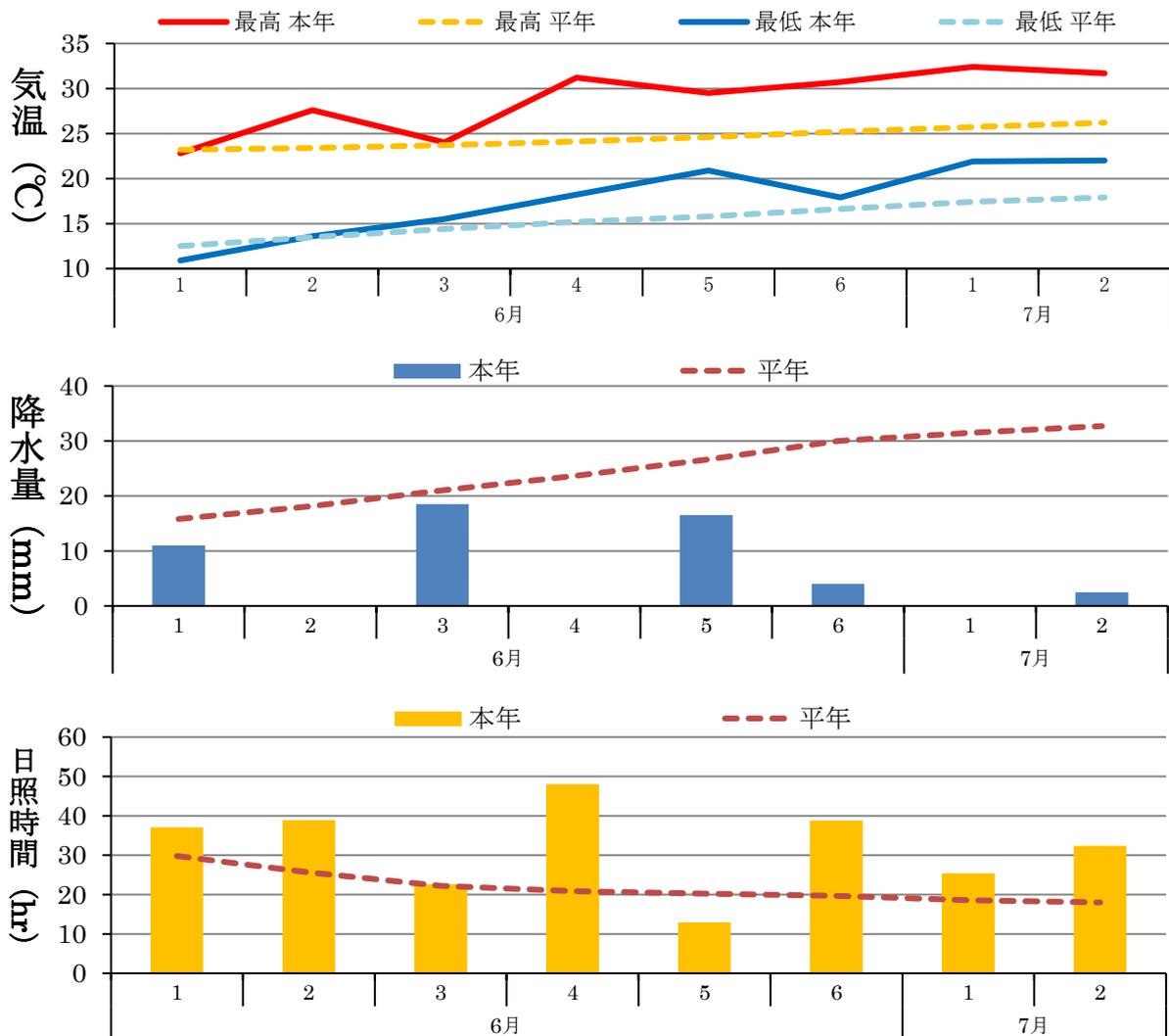


図1 6、7月の気象経過（築館アメダス） ※平年（点線）：令和2年～令和6年の平均値

## 2. 生育状況（7月10日現在）

### 1) 移植水稻

- 県内における「ひとめぼれ」の生育状況（県内 18 地点平均）は、草丈は 69.5cm（平年比 107%）、茎数は 473 本（平年比 92%）、葉色（GM 値）は 36.6（平年差-3.6）となっており、平年と比べて**草丈は長く、茎数は少なく、葉色は淡くなっています**（表 1「ひとめぼれ 県平均」）。
- 管内の「ひとめぼれ」は、若柳では平年と比べて、草丈は長く、茎数は少なく、葉数は並み、葉色は淡くなっています。（表 1「ひとめぼれ 若柳」）。また、一迫では平年と比べて、草丈は長く、茎数は少なく、葉数は少なく、葉色は淡くなっています（表 1「ひとめぼれ 一迫」）。
- 幼穂長については、当管内の「ひとめぼれ 一迫」の生育調査ほど 1mm を超えていることから、幼穂形成始期は 7 月 10 日頃となっており、**5 月の連休頃に田植えを行ったほ場では減数分裂期は 7 月 21 日から 7 月 25 日頃**になると予想されます。

表 1 7 月 10 日 生育調査結果（移植水稻）

品種	地区	田植日			草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年(%) 比	平年(%) 比	本年	前年(%) 比	平年(%) 比	本年	前年(枚) 差	平年(枚) 差	本年	前年差	平年差	本年	前年(m) 差	平年(m) 差
ひとめぼれ	若柳	5/19	2日早	1日早	69.1	101	107	512	93	76	11.2	+0.2	+0.6	31.0	-11	-12	1.5	+0.5	+0.3
ひとめぼれ	一迫	5/13	3日遅	2日遅	67.0	116	112	334	83	78	9.9	-0.8	-1.1	37.0	+2.5	-1.5	8.9	+7.1	+6.2
ひとめぼれ	県平均	-	-	-	69.5	105	107	473	93	92	-	-	-	36.6	-3.1	-3.6	-	-	-
ひとめぼれ	古試	5/9	同日	同日	71.7	130	116	557	82	88	10.9	+0.2	+0.4	38.7	+3.1	+1.2	7.4	+5.6	+5.8
ひとめぼれ	古試	5/20	同日	同日	69.3	139	116	617	105	97	10.5	+0.3	+0.2	39.4	-3.3	-1.0	0.5	+0.0	+0.1
つや姫	築館	5/28	5日遅	6日遅	66.3	105	110	430	100	91	11.3	+0.7	+0.7	41.9	+0.3	-1.8	0.1	-0.4	-0.1
つや姫	古試	5/9	同日	同日	74.0	141	123	568	89	93	10.9	+0.2	+0.6	39.8	+1.1	+0.1	0.3	+0.1	+0.1
にじのきらめき	若柳	5/21	-	-	67.3	-	-	655	-	-	11.1	-	-	33.9	-	-	0.9	-	-

注 1：平年値は過去 5 年間（令和 2～6 年）の平均値。

注 2：「ひとめぼれ 県平均」は県内各普及センター及び古川農業試験場における 18 地点の生育調査結果の平均。

### 2) 乾田直播水稻

- 令和 5 年の乾田直播ひとめぼれに比べて、草丈は短く、茎数は少なく、葉数は多く、葉色は淡くなっています。

表 2 7 月 10 日 生育調査結果（直播水稻）

播種様式	品種	地区	播種日		草丈(cm)		茎数(本/m <sup>2</sup> )		葉数(枚)		葉色(GM値)		幼穂長(mm)	
			本年	R 5 年 差	本年	R 5 年 (%) 比	本年	R 5 年 (%) 比	本年	R 5 年 差	本年	R 5 年 差		
乾田直播 グレーンドリル 播種	ひとめぼれ	志波姫	3/27	17日早	56.8	90	219	36	9.9	+1.6	30.3	-8.9	3.0	+2.9

注 1：令和 7 年から品種を「ひとめぼれ」に変更。

注 2：R 5 年差・比は令和 5 年産「ひとめぼれ」との参考比較。

### 3. 今後の栽培管理のポイント

#### 1) 中干し後の水管理

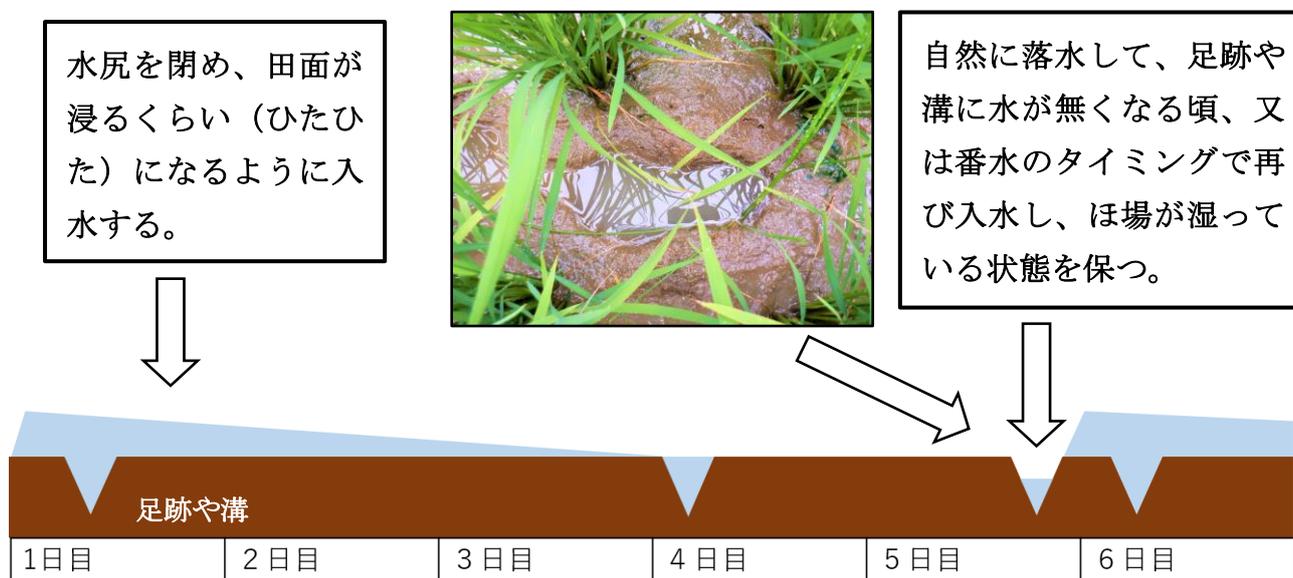
- 6、7月の降雨が少なく、管内のダムの貯水率が低く推移しています。今後の天候によっては十分な農業用水を確保できなくなる可能性も考えられるため、限られた用水で実施可能となる「飽水管理」を行きましょう。
- 出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。出穂後30日頃までは「飽水管理（ほうすいかんり）」を行い、土壌を湿った状態に保ちましょう。

ほうすいかんり  
～飽水管理とは～

従来の水管理方法に比べ、限られた用水で実施可能となります。また、間断かん水に比べ、より土壌を酸化的に保ち、根の活性が高まる管理法です。

- ✓ **実施時期**：有効茎数確保後から出穂後30日頃まで。
- ✓ **入水の目安**：水尻を閉めたまま自然落水させ、水田の足跡に水がなくなった頃、または、番水のタイミングで入水する。
- ✓ **効果**：通常の湛水管理では夜間に水温が下がりづらいため、稲体の温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまいます。⇒白未熟粒の発生を助長  
一方で、「飽水管理」では、夜間に稲体の温度が下がるため、**湛水管理よりも白未熟粒の発生を抑制することが期待できます。**

重要：入水が的確に行えるように、水田の溝切りは必ず行いましょう。



※① 日数はあくまで目安です。地域やほ場の実情にあった水管理をお願いします。

図2 ほ場における飽水管理（ほうすいかんり）の方法

**【地域で話し合い、限りある用水を有効に活用できるように工夫しましょう】**

- 幼穂形成期（幼穂長1～2mm）から減数分裂期（幼穂長3～12cm）にかけて、最低気温が17℃以下の日が続く場合は深水管理を行い、幼穂を保護しましょう。

## 2) 品種や生育量に合わせた追肥を行きましょう。

- 現在の葉色は平年より低めに推移しています。葉色が低下した状態で登熟期間に高温に遭遇すると、白未熟粒の発生が多くなるため葉色・生育量等に留意し、穂揃期の葉色を維持させるための追肥を行きましょう。
- ほ場ごとに幼穂長を確認して、生育ステージを把握しましょう（表3）。また、幼穂形成期や減数分裂期における目標生育量の範囲内から下回るほ場では追肥を行きましょう（表4）。
- 特に減数分裂期の追肥は、登熟の改善に効果が高いことが知られています（表5）。

表3 幼穂形成期と減数分裂期の目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25～20日
減数分裂期	30～120mm	－10～0cm	15～10日

表4 追肥時期の目標生育量と追肥量の目安 \*生育量の範囲内から下回る場合に追肥が可能

品 種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm）			減数分裂期（幼穂長3～12cm）		
	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)
ひとめぼれ	470～530	38～40	1kg	450～500	35～37	1kg
ササニシキ	720～760	34～36	(しない)	550～580	32～34	1～1.5kg
つや姫	550～580	35～37	2kg	-	-	(しない)

表5 追肥の主な効果・影響（◎：効果高い、○：効果あり、×：悪影響あり）

施用時期	穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質増加
幼穂形成期	○	◎	○		×	
減数分裂期		○	◎	◎		
穂揃期				○		×

## 4. 病虫害防除

病虫害防除所 発生予報第5号（宮城県病虫害防除所7/2発行）

～紋枯病、斑点米カメムシ類の発生に注意、草刈りを出穂10日前までに終わらしましょう～

▶葉いもち……発生量「平年並」

発生時期（発生開始期）「7月第3半旬

（7/11～7/15）平年並」の予報

- ほ場を入念に見回り、葉いもちの病斑を確認したら直ちに防除しましょう。特に、穂いもちの伝染源となる上位葉での感染には注意が必要です。



図3 いもち病の病斑

▶紋枯病……発生量「やや多」

- 前年に紋枯病が多発したほ場では、穂揃期に茎葉散布剤を散布しましょう。
- 高温多湿で発生しやすく、前年多発したほ場では、注意が必要です。

▶斑点米カメムシ類……発生量「やや多」

発生時期（発生開始期）「やや早」の予報

- 畦畔の草刈りや牧草の刈取りは、出穂の10日前までには終わらせましょう。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追い込むことになるので避けましょう。
- 今年度の栗原市の水稻の出穂前後の草刈り自粛期間は「7月24日（木）から8月22日（金）まで」（栗原市水稻カメムシ被害抑制対策本部）
- 斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底しましょう。



図4 紋枯病の発病株



図5 主要品種であるアサジカスミカメの成虫

◎お知らせ！

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

■農作業中の熱中症に注意しましょう!!

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。熱中症死亡事故の約85%が7～8月に発生しています。熱中症は正しい知識を身に付けることで、適切に予防することが可能です。

予防のポイント

✓高温時の作業は避けましょう。

- ・農作業中の熱中症による死亡者数を年代別に見ると70代以上が約9割を占めています。高齢者の方は特に注意が必要となります。

✓単独作業は避けましょう。

- ・なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。

✓20分おきに休憩&水分補給を行いましょ。

- ・涼しい日陰などで作業着を脱ぎ、体温を下げましょ。のどがかわいていなくても、20分おきに毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょ。

✓熱中症対策アイテムを活用しましょ。

- ・帽子や吸湿速乾性の衣服を着用することや、空調服や送風機、ウェアラブル端末などを活用し、熱中症リスク回避をしましょ。